

癒やしのまちで出会う 自然と歴史のハーモニー



みやかし

宮若市

きよみずでら 清水寺から望む雲海

市を一望できる西山の中腹にある清水寺では、県の指定文化財・木造十一面観音菩薩坐像を祭る。冬の雨が降った翌朝など、気象条件が整った時に雲海が見られる



俳句の道

片道560m、自然を生かして整備された遊歩道・薬水之径の一角にあり、宮若全国俳句大会の入賞・入選作品を記した木製句碑が立ち並ぶ。彼岸花の名所としても知られる



追い出し猫本舗

「さくら」をはじめとする宮若のゆるキャラ「追い出し猫」のグッズがそろそろ専門店。手の平サイズの土鈴マスコットへの絵付けを体験できる。冬には合格祈願として猫神も出現



宮若リコリス

市の花である彼岸花から命名され、平成24年にオープンした生涯学習センター・図書館。イメージキャラクターは幼少時代を宮若で過ごしたリリー・フランキーさんが描いている



ドリームホープ若宮

地元の野菜や果物をはじめ、ブランド米、キムチといった加工品など地域の特産品がそろそろ人気の農作物直売所。脇田温泉からも程近い



千石峡

八木山川の上流2kmにわたって形成された渓谷。キャンプ場、公園、広場からなるレジャーゾーン「いいこの里“千石”」で、水遊びや森林浴が楽しめる



竹原古墳

6世紀後半に築造された直径約18m・高さ約5mの古墳。船や龍、馬を引く人などが黒や朱の古代顔料で描かれており、これほど鮮明に現存する装飾古墳は全国でも珍しい

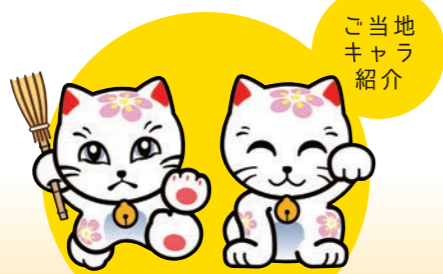
充実のアリーナが完成！「光陵グリーンパーク」



市の東部にある総合運動公園には公認規格を満たす野球場があり、高校野球予選や九州六大学野球などの試合で、市民に親しまれています。芝生広場や園路には健康遊具などもあり、今年6月には、テニスやフットサルなどのスポーツが天候を問わず楽しめる多目的屋内施設「アリーナ」が完成。市民の健康づくりやレクリエーションスポットとして注目を集めています。

こころを潤す 自然の恵みと人の温もり

平成18年に宮田町と若宮町が合併し誕生した宮若市は、福岡市と北九州市の中間に位置し、両都市圏からも好アクセスのまち。豊かな自然からもたらされる清らかな水で育ったお米や野菜、果物は良質であることで知られます。また、農業とともに、自動車産業などのものづくりも盛んです。観光スポットとしては、犬鳴川沿いに広がる脇田温泉や歴史ある文化財などが点在。市民の運動施設もより充実し、暮らす人はもちろん、市外から訪れる人にとっても、ホッとできるまちづくりが進んでいます。



追い出し猫

両面に顔があり、怒った顔で災いを追い出し、笑顔で福を招く縁起物



宮若市

問い合わせ 宮若市役所

宮若市宮田29-1
☎0949-32-0510(代表)
ファクス0949-32-9430
<https://www.city.miyawaka.lg.jp/>



米粉ドーナツ

宮若は江戸時代に黒田藩のお殿様が好んで食したという良質な米の産地。米粉を使った千石屋のドーナツは、グルテンフリーで、もちもちとした食感を楽しめる



地黄卵

植物性の飼料や鶏の育て方、品質管理などにこだわった宮若のブランド卵。ビタミンEがたっぷりで、濃厚な味わいが特徴。「たまごの里」で販売されている



宮若ふるさと祭

地元の農産物や特産品展示即売をはじめ、ステージや各種体験コーナー、模擬店など宮若の魅力をPRする市民イベント。毎年10月の最終日曜日に開催



日本一の大門松祭

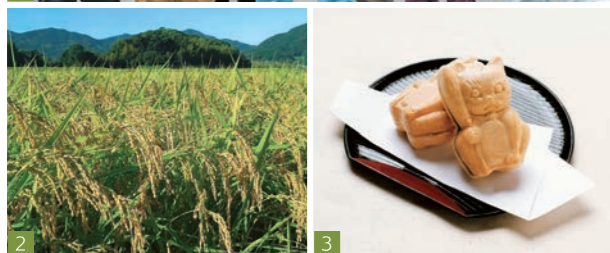
地元の竹を使って作られた、高さ約9.5m、台座の直径約5mもの巨大門松で福を呼び込む祭り。大門松は1月中旬まで飾られ、夜はライトアップされる



若宮八幡宮放生会大祭・大名行列

江戸時代から続く福岡三大放生会の一つ。2年に1度(偶数年)10月上旬に開催され、華やかな山笠や大名行列を従えるみこしは見応えがある

pick up 《ピックアップ》



1.「宮若じまん振興会」のメンバーの皆さん / 2.「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で金賞を受賞するなど、おいしさに定評がある宮若産米 / 3.平成25年に誕生したご当地スイーツ「ねこがし」。市内の菓子店が「追い出し猫」をテーマにそれぞれ趣向を凝らしたスイーツを提供している

地元の生産者が愛情込めて作る「じまん」の品々を介し宮若のファン作りを

宮若じまん振興会

朝晩の寒暖差が大きく、四方を囲む山々が清らかな水を育む宮若市は、古くから米をはじめ、果物やタケノコなどの農産物の名産地で、こだわりを持った生産者も多くいます。そんな農家や事業者と市・商工会が連携し、新たな商品づくりや市場開拓などを目的に設立したのが「宮若じまん振興会」です。現在、農家や養鶏所、飲食店、菓子店など、26事業所が加盟しています。

「インターネット販売の他、イベントや催事出店などで販路を拡大し、年々売り上げも増加しています」と笑顔で話すのは「宮若じまん振興会」の会長を務める安河内豊孝さん。安河内豊孝さん「宮若じまん」の品々を通し、地域PRに貢献できるよう、熱意ある活動がこれからも続きます。



1.「ヒガンバナまつり実行委員会」の会長を務める来島仁左衛門鴻司さん。7人の実行委員を中心に活動している / 2.犬鳴川の土手800メートルにわたって約25万球の彼岸花が咲き誇る。まつり当日はステージイベントやスタンプラリーを開催する他、露店も登場予定 / 3.桜の見ごろに合わせて毎年開催される「犬鳴川桜まつり」

豊かな自然の中で彼岸花が美しく咲き誇る風景を広く伝えたい

宮若市 ヒガンバナまつり 実行委員会

かつて犬鳴川沿いで当たり前に見られた土手桜。失われたその風景を取り戻そうと、平成7年に市民ボランティア団体「犬鳴川みどりの会」が発足しました。緑綬褒章など、数多くの賞に輝くほど活発な活動のおかげで、犬鳴川河川公園として整備された一帯は桜の名所となり、市民の憩いの場になっています。

桜が咲く春以外にも、公園一帯が華やぐ季節があります。市花の彼岸花が咲く9月です。「土手が真っ赤に染まって本当にきれいなんですよ。この風景を多くの人に知ってもらおうと結成したのが『ヒガンバナまつり実行委員会』です」と「犬鳴川みどりの会」の会長も兼任する来島仁左衛門鴻司さんは話します。第1回目となる9月23日のまつり本番に向け、「桜まつり同様、長く愛されるイベントにしたい」と意気込んでいます。



1.毎年新作を披露する定期公演に向け、毎週土曜にみっちり3時間稽古。団員全員にせりふを持たせるのがこだわり / 2.現在団員は小学1年生から22歳までの24人。舞台衣装や小道具は保護者スタッフの手作り / 3.代表の永尾睦さん。かつて故郷で市民参加型ミュージカルの運営に携わっていたことから、宮若でも!と声を上げたのが始まり

作品を通して地域の魅力を発信。団員の子どもたちの心の成長にも一役

劇団宮若 レインボーカンパニー

「劇団宮若レインボーカンパニー」は24人の団員を中心とした市民劇団です。宮若市誕生の記念事業として実施した市民参加のミュージカル公演を機に平成18年10月に発足しました。

毎年3月に行う定期公演に向け、約1年間練習を積みみます。作品は地域の歴史や文化を題材にしたオリジナル。脚本、演出、ダンスを全てプロが手掛ける本格的なもの。「おかげさまで定期公演は毎回満員御礼。市内外イベントや福祉施設など、出演依頼も多くいただくようになりました」と話すのは、代表の永尾睦さん。「一番の楽しみは子どもたちの成長を見ること。入団時は泣いてばかりいた子が数カ月後には堂々と舞台上に立っていたり、プロの道に進む子がいたり。劇団活動を通して、子どもたちが心豊かに成長してくれることが何よりの喜びです」と語ります。



1.開湯は奈良時代ともいわれる脇田温泉の組合長を務める「喜楽荘」の大村富士男さん / 2.年末年始の風物詩、「日本一の大門松」。大門松は組合員や観光協会スタッフ総出で製作する。展示期間は12月第1日曜日から1月中旬 / 3.福岡市へと続く犬鳴峠や桜の名所・カヲダム付近での草刈活動の様子

犬鳴山の麓に湧きいづる美肌の湯と美しい自然でおもてなし

脇田温泉旅館組合

犬鳴山麓の渓流沿いにある小さな温泉地、脇田温泉。春は桜、初夏にはホタルが舞い、秋はあでやかな紅葉、冬になれば雪景色も楽しめます。表情豊かな自然とともに、「美肌の湯」と称される泉質も自慢。ほんのりと硫黄が香る湯は軟らかく、湯上がりには肌がしっとり潤うと評判です。そんな名湯を守り継ぐのが、4軒の宿で構成された「脇田温泉旅館組合」。現在、「喜楽荘」の大村富士男さんが組合長を務めています。

「昭和30年代までは炭坑夫たちの憩いの場としてにぎわっていましたが、今は静かなものです。温泉と自然だけの、のんびりとした雰囲気を楽しんでほしいですね」とほほ笑みます。「日本一の大門松」などのイベント実施だけでなく、温泉街の清掃も、訪れる人を心地よく迎えるための大切な活動です。